

吉田 隆

三、ビジネスモデルの

確立に向けて

⑥ベンチャー精神

「ビジネスモデルの源流」

★NTSは、ここ数年、右肩上がりの成長を堅持している。昨年は、月刊誌の創刊、営業部の拡充等を行い、今年も全社統合を視野に入れたシステム開発に着手するのをはじめ、4月には市川営業所の移転を予定するなど、新規事業や体制整備へ向けられた活発な事業展開が成長の下支えとなっている。今回は、その活力の源流を振り返ってみたい。

★NTSの出自は近代出版業界ではなく、いわば情報出版業界である。前者は岩波書店に代表される出版社―取次―書店という、明治20年代に確立した書籍流通システムの下、近代読者を前提として誕生した出版業界であり、一般書籍から雑誌、マンガに至るまで、ほとんどの書籍はこのシステムで流通している。それに対し、後者は高度経済成長期の真っ只中の昭和30年代に産声を上げ、産業界を顧客とし、経済・技術情報をセミナーや資料集の形で提供する出版業界である。高度成長の牽引役を務めた鉄鋼・家電・自動車・石油化学産業といった一連の企業では、各種産業の市場性や経済性をテーマとして大手新聞社が主催する経済セミナーに競って参加し、最新情報の収集にしのぎを削っていた。そんな中、昭和37年頃にケ

ミカル・マーケティング・カンパニー(現シーエムシー)および日本エコノミックセンター(通称エコセン)という二つのベンチャービジネスが誕生した。前者は特定企業を顧客とする調査・分析専門ベンチャーで、後者は不特定多数の企業を対象とするセミナー・出版ベンチャーだったが、いずれも迅速な情報収集が事業の要となる産業界のニーズに応えるべく登場した。情報出版産業の先駆けだった。両社の成功により、昭和40～50年代にかけて、同様のベンチャーが数多く誕生したが、私が昭和53～58年まで在席した(株)フジ・テクシステム(通称フジテク)もそうしたベンチャーの一つだった。フジテクの創業者である小野介嗣氏は、当時まだ経済セミナーの影に隠れてマイナーな存在だった「技術セミナー」に着目し、昭和46年に技術セミナー専門ベンチャーを設立した。また、ほぼ同時期に小野社長は、技術セミナーの手法を応用した「技術資料集」という新たな出版分野をも開拓したが、昭和60年以降、電話営業という革新的な販売手法を取り入れたのを契機に、資料集はハンドブックに主役の座を譲ることになる。フジテクのみならず、他の情報出版社も概ね似たような経緯を辿った。昭和60年、フジテクを出た私が起こしたNTSも同様である。

★セミナーから資料集、ハンドブックへと情報の形態が変遷した背景には、経営の安定を求めるベンチャー側と、高度成長から安定成長へ移行しつつあった産業側との双方の事情があった。だが、形態が変わったとはいえ、日進月歩の先端技術に存亡をかける産業界が最も切実に求めるのは、情報の「速報性」である。バブルの洗礼を受けたセミナー専門ベンチャーの一部が、その後にくる不況の中でしたたかに生き延びて来られたのも、そうした切実なニーズに応える術を熟知した専門集団だったからこそである。情報量で圧倒するハンドブックといえども、早く出すという点は例外ではない。言うなれば、セミナーは3ヵ月、講演録は6ヵ月、資料集は12ヵ月、ハンドブックは24ヵ月という期間内に、切実なニーズに応えられる情報編集技術なのである。

★NTSの活力の源流は、常に情報を求める企業のニーズにいち早く応えるベンチャー精神と、それをセミナー、ハンドブック等の形にする多様なビジネスへの展開力にある。今後、本格的なIT社会が到来し、情報の形態が劇的に変化したとしても、このような活力の源流を見失わなければ、次の時代をもしたたかに生き延びて行くことを確信している。



掲示板

■今月の人事

入社

営業部業務課

退社

エヌエスハイテック

営業部

異動

市川営業所

■社内清掃について

次の日程で床掃除を行いますので、宜しくお願い致します。当日出勤予定のある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

本社事務所内 3月24日(日)
営業部内 3月16日(土)

◆編集後記◆

大学改革、国立大学の法人化、産学官連携など大学を取り巻く状況が大きく変わろうとしている。社会が新時代に相応しい教育の場の創造へ期待を寄せる一方、大学側はそれらの調整に向けて連日ハードなスケジュールをこなしているようです。今月号のインタビューに当たっていただいた白井注芳先生も「学部長という職はすべて健康に悪いことばかり。自分の歳を忘れていると危険です」と苦笑しておられました。先生は運動不足の解消と併せ、春から秋まで休日は畑仕事でリフレッシュしているらしいとか。将来は、海外出張の折に見かけた日本で馴染みのない野菜や果物を信州大学の農場で改良することを夢見ているそうで、ささやかな自家菜園を愛好する者としてはうらやましいかぎりです。(な)

NTSニュース二〇〇二年二号(通巻三十九号)
二〇〇二年二月二十五日発行